新板
絵入

鬼一法眼虎の巻

二

へ 13
1.660
2

へ13 特
1660
2

三木与

鬼一法眼虎の巻

巻之二

目録

第一　位勢と極と色所事付ぎちやぐろ之看は
五畫分ぬ老い白ぬの矢打拍子の神へ捧物
行て神系とあげやれ亨るゲ方被は
法ろ元系南一重吟て梓が川へおくまり

第二　勝小七年の遠国に流れ和歌浦春の
又嫁と連て古へ立入る浦乃うら
なき人の口とれ形見新しく残る鬼子
歌の月をぬく月毎に答かつ出る法師

第三　杉角這入て塩入て矢心なる男の間紙
をさ弘法ぐ法師の中いひとを寝れ家
塩入の果い涙よりかる古屋の屋れ為屋
氏神の川会色物屋とめぐりあ会又男

一　伊勢と紀と色河市仕げまつるだろう交雀は
若月光子のけそよ入ぷまの男屋茅と行んと。ぷく行ひに
よりぷまれ伝とおんとぷぐ。ぷの花女をおせよの紀れ山告み
法りも。ぷのろ里に女て花女をおまの。ぷ流れて今も花の
法松。ぷぎりに一板川のみれ名に年。男の柳のいつろぷ人の玄
用の鳴方へうびくぷまの男。ぷ男に男と法りも。まんざ
ぷろの法。ぷもぷれしてそれろ
花女の男に。ぷのぐ玄ぷ。ぷて。男屋茅い服よ法を取ぷ。
ぷろ伝ぬのろ色きまぷ。ぷ氏今両の女白へぷれぐく白松ぷの
ぐびよいわぐぷ。ぷぐ。ぷ釈の法。世の法りに男とろれて男と変
女ぷいぬぷぐ。ぷに。ぷ男ぷ。ぷ男に。ぷ

[illegible]ぞ[illegible]ぐひのことそいふ[illegible]すよ[illegible]
て[illegible]ぷ[illegible]の[illegible]の[illegible]ぷ[illegible]
ひ[illegible]ぬ[illegible]て[illegible]ぐ[illegible]
あ[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]
ま[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]
さ[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]
ぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]
ぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]
ぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]
ぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]
ぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]

[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]
ぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]
ぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]
ぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]
ぷ[illegible]ぷ[illegible]ぷ[illegible]
ぷ

ゑぼうしまうすぐ[illegible]おれのおやぢ[illegible]おぐりやの八郎こうしゆかくしゆ[illegible]
大臣おわしよりゆるしすの[illegible]れとそ[illegible]ぢよあつせらく[illegible]
つうひさうれおのいかう[illegible]の[illegible]
大ゐ人の[illegible]の[illegible]の[illegible]
ぢすするぐ[illegible]
よいうじんなのやうにすぐ[illegible]
おわしの[illegible]
[illegible]
さとて[illegible]
いとぢまるかさえうにけれ[illegible]
いとておぢう[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

株よりかけ、れものと云てうすべて今伊勢の山神系図におちゝおとして侍
るきさゝおなのあるい神のの山ゆうちゝ白れの手と云て立
屋ゝとゝいつるゝいつゝ山ゆゝ月ゝ白ゝ白れの手と云て立
けひゝものちん歌方とゝ白ゝ白ゝ月ゝ白ゝ白れの手と云て立
昔ゝ伊勢国斎宮に姫宮の山ゝ白ゝ白ゝ白れの手と云て立
七月ゝ白ゝ白れ白ゝ白ゝ白ゝ

那智乃海

三年残りて秋了の心づくしの秋尾い今月ぽんはナ方にいらぐのるく秋尾く
のりて然程に長行つくさるべと祝新の方とのべて四五日まいるうう。
秋方一方四方おいはれそいおのもみさうあるの。紅葉のもう海の色ろい。
いらあるとてしん然程の事四いうく知らるべとぷ文の事四おたるの。
高砂おまど稀月えいれいそぎ祝方あれいそふとおのせざんざめしてく
るるとお帳のおくに然程まうぞいうきこのはとおあぐ漕
のくとりけるまみの社のあるる海をあの今ろいう万里の海れ秋の
沖共ひといそこそ神猿のとこのの秋の海宮にそふいうると
うせて宮ろにも猿まうせ宮赤面の火とおに宮ろ拍せあるる稲
のはぬいづれも吾妻平よるとそおちやうんにそふけるぬ宮ざいた
ちいされ秋のまくびけて宮のひきてうらにそ秋とあぐらそかうぐう
まるぐく食会るく秋いりむそれのいうきいたくいい寝

ろうぞおのれひとりのぞなのうろあくすみうろうびぬふよ新麦ゆうさせ
てぬあぐつて宮ろにて垢新とかちんとする宮ぬ宮歩けてぐうゆうさいぬの
あく秋いひて。あいのつて。あのるあつて。垢新ろつ同紙るいい祝もゆう
ろうぐ七ぐ紙ろうぐ怪紙させてうるるく乳と付。みいと紙でおの四紙平と
あるまぬふるあるぐろのまれるぐ。からるの追ぬぬろいぐざるとうも福声
いておぬさんあげどさうといふ待る男るぬ。これ昔のくるる方紙いきく
の果といふいつて。神猿ひぬゆう紙ぐるかくるあつろせるるく猿ぐる
いつも妻ぐ紙くあぐ。ぬるぬのくでのるあく乳ぬふいひろあうぬこくるい
ふくれぐいうついてのそてさいくうあ。紙いもくと紀ぬるぐつるぐ解
て紙とおいぬとぬてくるそたりくあるもろそ。ぬふいぬ紙ぬよろ紙いぬこ紙の
あるぬろるくとろるまあるあびきあ。ぬ色の里の母ごのるくつれて神くぬ。
ひる紙くと知解とめぐしぬ。母の美あるけぬ神猿よめて宮をつしく

出るゆへにげるものやうとなげうちにげさかりおれば海とうて行ておきうたがいこそ
あるこまづひるこしかすこいつこと給へきれいこの所に結ぶいそぎもしこ古志
鬼こたもやおおまへい鬼こたおれる軍けまりの鬼ばくれの中男のこおがの国
京のぐうて鬼ばくれのれまとゆそまうてゆうそれに古国の里とけかなされ。
そしく仕給ものしこゆへ無れいめ大義次第いぐ海くもあるごこゆおこれ日い
ござうもせうんぐこぱそるりそまぐそれこふぎのゆでおれいくうほたこ行ぐぐ。
仕るゆそ古国の里へゆそかへ来るこ海とさてたぐひる海て国中海うそてうこゆく
あこゆろうこの去れこんるうこう所とつぱゆれ新仕そ海めぐそこおのくれのきれど。
川もうひの時呼ちんうもおうこゆおうぐれて海落ゆべ新ろうこいめうこうのゆ。
ぐうんぐうんで和いこ笑新て国ものぐうこゆとそゆ仕るゆるめくそうう
おゆ行れい来りゆ国古来こけれいいずいゆうこゆおうぐたぐれて見とゆこと
ら仕くこいこまのうおくうきいのれゆ海とうの稼といこれてゆ仕ぐこと

おゆぐ仕海へこんうるゆとゆるこう来れゆ新てゆ来こうて新こいそして新和の海く
えいおくまう

（二）

陸門は七〇の這海へ国おの和歌浦春へ

秋ちく陸の方ゆ花ひびきゆ古国の国ゆこの方ゆ山ど真ゆこうていくぐいる稼
ら仕ぐ永くさゆと只柳のおのるのくおりあ仕ゆこと海の和いなくて。
来き月の上ゆくきそひとのきれ仕ゆ行ゆぐゆ出ゆ花わくゆくさゆうくぐ。
ゆ来ゆ来ゆ海ゆるゆ仕ゆうくいこうゆこうゆ海ゆ海ゆけうゆ来ゆ海ゆ
ゆ来ゆうゆくこゆこゆこゆうゆゆうゆゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ
くびくこうゆ仕ゆこゆゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ
いこうゆゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海ゆ海

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ものく。五郎のなどと感じぬべくぞ有ける。姫のまゝ別当弁法師
世の時。源人の母い姫のおとゝ異母とゝ未婚にせんとのいひ名付ある姫ご。姫
のまゝ秘密い法師ちしだ兄嫁。そもの人嫁と領姫みせい面れど。面倒をよう
一ちぐべて。宮の名所へ行。力尚本ゝ人ひりだ今ゝとおゆずて。出返
せといてゝ。元年くゝ。いせ国。今ゝとみて姫をつま
ゆりゝ。いべ今ゝと秋よ法され行。てゝ。弁とゝ国。法ゝ。ゆくゝ。れ
ゝりくゝと今ゝ。い法されば。そもゝ。弁ゝ。すてもみて。行ゝ。今ゝの人をゝく。
勇と変に出れゝもゝれゝひべ今ゝも。れゝしゝ。なのゆゝて。拓く。医。ぜん
いづれの名ゝもゝ。宮の社無へ行。そもゝ。のゝ。法ゝ。ゆゝ。ゝ。ゝ。

生れて、いちづに、朱塗の、ぬく、まな、眼の、まえ、ひ、ひ、て、ぬ、ち、そ、ん、
ぬ、じ、ひ、け、ま、ま、の、ま、ま、ま

りつんで性なしかさきを二方拾とをせいかつとさいごにてらせ二
無いと人にうり椒の実を乾るまこいはなきをもやと手方がたそよ
れ村のつと二人をにあらいつこふみ乾とうんとする所を鬼三方雑人と追
そうひ三郎と侍とうるうすると裏へかけあ手方とつんでうんこ
ゐ仏の粗へ打付れいの部こくいよ打ごうれかつこの家こそ泣てうこ二人い
うんごいのうれごいるれ村ぞとあげかのこ法人のひうう鬼三方うそ三ぜひも
ぜひもこの仏命ちうんぞ人面ちの歌手方めい打乾ねせめてはさの男
ちの命なとけこ伯方にそとこひうれいこ二人いうれうこ猫よ毎れ計に仏村。
せ仏のうい仏つうざこうづいとあこれ墨でおりうるぞよ方をかる
大金のうこと四方と上ぞ書れ花ぜはうせまれるといづこ。手ばづひめこうる
出せのうい悪侍ごづこ。こうるに家にうくれあるこのうる手なあんどして。
みづいのこいごの法方と伯れいぜ手方大方うるおうひ二郎ぞこゆしふ大

わうこ手方けあんい法こさある所い怪我をほこさ拾ひてあるず悪侍い
けうこと乾うすづいうこふ三郎。乾三郎こて方うこと。ぜこの伯ぞこいと
とりせうこさん。出方のうのうれ方まこい拾こうこれいぞ乾こゆんいけこ乾の
ふうるまで方てこあいうるはぜてこ方こうれいぞ鬼こうこ法いけ乾の
拾うるあいあこ法ぞいぬで乾ういいうれこうこ鬼あこ法ぞいこ鬼あと
いそひ椒のあうるこうこいつれこ法ぞこ法んづこ法ぞひ拾い足鬼法こいひう
付人い基乾こ乾ひ鬼法こうあこ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法
乾こ法こうこ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法
こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法
いめこ乾こ乾こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法
決がうこ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法
法いこ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法こ法

柳のおれをはぎとりさいなみ。あく立のさまはひとしく毒三つ八。立花をかつぎ巳
の方へ立て。立のうんさかりもゆるぎなく。そなが安合と人命をとり
返都へとぞ帰りける。バ。其ご命とかぐひ。柳のおれよりは難儀をうけ
られをいきよくも巳。正徳和尚にて自害。中善方と申ひとり。ア
逢てのちとすをゃしまうれさい。柳のおとつれのくそ。浮るぐ人を
つれ。姫来といさあるくそことのさにくれつもすさず居をし
ゐして家内へけ入。義決を巳方に初て拵おうのつるぐさじまいり。
扨いろ姫とつれてすでうちめいめげ出と云さうい。まぐさをくい義紋ば。
いざ追うけて御ようん。どのたるおけ紋ぐと云ゆの紋れ。ひと
まけて追ようけこうい。柳よは義経主君の功力にてみぐ安義方
云ゆ。ゆてるのい。柳非のさぐいる主の恩業。ゆの紋主善と仏も
伝ゆ人ぐい。ゆ紋ゆ。ゆて柳ゆるゆと。鬼ゆたい姫とうし都方義紋う

三　打角這入て源八矢止ぐう多の関花

文法が附も第に。淀流泗の新おぐと。花いまくい白人だ。ま白所の
ま方に紋年も義の中にくれ。さのよけとゆ。ゆ七男立て別角の
ほ色奉拵仁奉ゆ。ま拵院れまるうそ。そられ。今年七才ゆ。
ゆくゆ。ぐ仁ぐうう大ま八て自家のゆれ。ま三ゆ八てぐうも力つよ
く法男ゆて。ゆのそあはうのぐ。ゆのゆれ。ゆずと。ゆくをつくゆ。ゆ鬼
ゆとぐ。ゆそすぐに名ゆ巳。ゆま同の年ゆ法義ま。ゆまうひのまにて。ゆ法ゆ仁
とかくふけれい。ゆ区の仁紋の紋ゆ人ぐ。ゆあぐまに日紋ゆうれ。ゆ義決の妻
ゆ紋ゆも年老。ゆまを。ゆまに。ゆ中風ゆて。ゆ巳ゆて。ゆとゆまくにゆるゆず。ゆれゆま。ゆ方
ゆれ。ゆ。ゆて鬼ゆにあゆれ。ゆれゆま。ゆ。ゆの方の仁ぐ。ゆとゆゆ。ゆまと。ゆ紋
義の時ゆれゆ。ゆの命を惜ゆ。ゆ。ゆ方い。ゆ矢。ゆにけれ。ゆまゆ。ゆ。ゆの紋く
ゆ。ゆ紋ゆれ。ゆの。ゆい福ゆ。ゆとゆめゆ。ゆ。ゆ。ゆ離ゆの紋ゆ。ゆ。ゆ。

第一王子社の祈願
鬼涙ぐおぎのまへ
ともちゝぎ
銀波ぎハ
女をろさん
とふ
名
鬼三郎おとろき
おいとぎまへふ者ハ
銀とをろさ
あだの
まへ
ろんぎ

鬼涙ぐ彩ネ
のよとうと
ろをを〜く
一衣盗のろちやう
ぬすゝ〜名を
一彩ネの盗人さ
ろ〜を
池波
名

わさびく。屋さん(蝙蝠の形容)おりく。屋の屋下うとそび。屋屋、来。
母にものこれも形をを伝よ蛇くとよびてうくまいされ名れいば形を
と一人いとく。も身の手のろいいいいいびてびるの成人と行をそそ母こと
るれ。名名れも衣の異きいものげた。名れものもさいおくんぐく。火焼い
切てれれどびたおくすぐき異をけれいべすびい蝶の下面をくゆ。みの面の
蛇さんるくぶき色きわとはかの蛇そのうれる師きの月表面をる。
のくさ一人異くにるき四をてにぶるとい物よいれるのう。盗人の用か
斗にいい。気数ごうる一つ屋とうにひ。ぶ。ぶできそこ仕合の表盗こ人遠
いて。細ア。とぬ四。さらうるるの人。ひとうもるけきびばびるおよいるきき
うと活利ずるぬ。形をる。おきさは絵の中めい。作だやさいぐらぶおきうの
家きさたしぬよめでそ風を汚ぎのるい。伝で用じあうらば考うの人な
ら家。あてちされとう人ば盗人たそとゆて。稼くけると脇仕始りて

かく。穫ろうくこうるきこ考系いいこうるり色。ぶろそ湯めくく沸して
絵でとぶおきれていいくと形をる陸絵の中る面とも。あいぶよいあしど。
沸と彩みくれいば汚基様て柴一来賞で材のあれれ人めぶういゆを
うしてを作ぶくまいくいかぶも一型のまてもきれといいとゆて拍も
字彩で水おどくの焼物。字ぶいくいのでよい宿ぶめく働の体ぶいとどし。
青めく。を住合の漢をくに。酒常ていまひるそそ出ぶとこ。三人の四一人
酒常に出れいば。二人い彩りくあいゆ。絵よひとうおくそ必がくきこ新れ
屋よい。ふ目ふきどそれておくてあそもみ新せずいぶりあいうをうけ。
青ふあけよ小判ふで入てくく。貝様ひのぶぶみるのとぶもくとうんま
いひ。ぶ。形の角に絵の立りけてあるに目とはぶそうくとようて絵と
さけてそれいたうるとあひ。ねこそとあ。人とくれいば彩のりさあ仕商
さ。ひ。だくてひ。ぶ。て。あげあ。二人のぬ系ぶゆ。ねさきにれてあげ。和一人

の法はせんと。弟の中ぬいはしてゐとあしつけて先行ておくれ。ふつくもも同じ
高岩と云て。後の拵の盗賊仲間。痛よ来もめけさるか大がりこみて。
のつさくと来りが。夫人のあり弟りかくびけてうやろぬい。仕合ちゑ出あげ行
盗人ごさんなれと。ろぐでんたうさぐり。仕合の配いてさふす男同あべあメ
同。みメなあべ欲メるなさあ浜せといひくれべ。うぬめこちが中る
けていつのくまねあるるぶ扱い新米のか盗人。古い新盗の中にてもちち
きく物ぶ拵のろも物そうせ。同人へとびすぎぬが。和て我ぐが和ちさ和の
まけはそふてい。猫のろうてあるあと嵐ぐゆひにひくきぶ人猫ゐと
つこめぶくのいそろとひろげよぶぐらつくと二つにするぐとぶよりゆく眼む
ひき面て和ちつれべ。ふんとおぐまよ化粧力拵おいてれ中るろぐれと
ろてそ塗るあんぶまけはいれまい拵くもられ面てゆけさおいと宮か
浜池の泥みのますぐふぐやといんべ。シャのびるてる新米ぶ。ぶおと

ときぶ。ひんひわ〻拵て行てあるとひるどりて横ひてくんべこりよ。ぬて
胴ひろ上い浜池へころびと行て流ちろいくれぬとさきに金をあく
ゆ。ふんやと。伴の弟とりくびけ。七八町も立去ぶ。ふの氏邦と云て法た
よりい奥へろきぶ拵ろろふんへ入る森の中へ行ぶんあふ。ぬてろる
べ。ふつろぶ。伴の弟のふてふて。月新よ中とろれべ。張の中へぬちかうろ。
行ろんてあるぶ。ぶ力いんべ和ふ八条の拵ろの隣で新米ぶ。
ふは。つぶく。法師。行ぶ。新米の方ひ性こ浜て来ひ。
よも。今の盗人法師あるねすんで来て。新中に拵ていあるくほ。作行ぶ。一
来い新参ふと。はは拵ある弟。今ふ。ふ。一流のゆうるゆ。ゆ。て。て。浜
民。張あるものいい体。て。ふと追ろるとゆメけるぶ。扱い法師と追拵れ。
ひる。りゆ。ゆ。ぶ。ふ。ふ。ふの盗人よびちかとぬすまれら行や。行ふ
せよ和ふ八。い法ぶ仕合。ふと。ふ。て。ゆ。ぶ。ちはふびちかい行く

縛めし縄がわるとうていうと。第のうてさとうとして。ちらく伸んで居わけ
るべ。紙の縄へ。なもひさ大縄る。れたスハ。其中二月ハ。縄をあれ。でい。至
ぬとみうてスハさんとおうとうとこれいさいいの。さでうこの。ねんあう。そにて一夜
とおうさんと。おあ。ハう情中る。拐中。拐中。決とおて。決縄にうも。ただ
ことのこ体とおれいが。縄人と。ハて。男女。生きて。縄てみうしが。男同さ後一
決縄の決とうて。紀わが。さやる。出てたんこつ。ぎ。ハ。ちなおが。こ。ハ。決とい。色
るされて。ちされとうとのが。ずと。ちうが。ハて。ぬて。ぬ。決縄。ハ。おやさ。ぬ。ぬ。方
おう。ちうあう。だ。ちさ。きして。めう。ちく。いさ。ちう。ちく。あう。ちと。いう。ちれ。いが。安
いうく。縄。ハ。ぬ。ひと。だ。こ。ハを。拐。ぬ。せ。ぬ。ちう。ぬ。ぬ。ぬ

きいるべかりしまうぐあ裸にぬぎすて花ぱぱうそぐそとあるゆえにいいのうれば。
ハア矣ぱうつとそのうえ人ぐいれと二のうえにわうれるつのどに苦とうられてぱどよ
ろうう打ぐ後ぱは生てのうぱ接病なる接人押じてうれわうれ我ぐあどにゆてい
力の出撥十日ぐど働のうぬゆうるあに合そぱ悔あるかと二のうにいべぱそ
く怪ぬよきものうとのいれ十日ぐど働うぬゆうにうてうらうとぱうる腕
うてうぐうぐうげうとぱうにびらぐうるうとぱうれうなびはあいゆうし組
うん椒のかい目とうう脇とうぐて牡れとぱびかうじうておいのうと
あぎうれぱかも若ぱずうう合ぱうんうく牡れと物後分下く牡じずに女
のそ痛うう川ぱゆ上にのうカと接てうあ牡れ接合とおうずいぱ共ぐ肝うれと
ぱうるかとうう教ぱうそ面ぱうう三ぱじ年月法ぱとぱうう幸者うるぱうとい
名付あう男ぱう海ぱんとのぱううぱ人盗人ぱうぐぱうけうせていうあ日ぱうう
豈一時ぱううぐど同ぐどゆれ法てうれうぱじうあぱうそ接うう人ぐつけどい。

いうぱうと法合とううすぐとぱうとうんぱうれいぱ椒のおいうぐごゆに合
あぐぱうテ見い牡うれてもううるいぱうか用うえの法合とぱ盗人ぱ法う
れていあすゆ伯とぱそいうと法ぱとうあのうぱうれぱぱ我ゆえに合とと
法肌ぐでゆあそぐていぱ鬼法ゆえ人れぐ身とぱひうえのううれぱぱ人身の
鬼ぐ立うれて接てうく家とのうさゆ人とぱ命とうぐどうあゆうけぱイやうぐで
あいぱうう法ぐ女房うれいぱ牡うれぐ日ぱうぱ人ねぱ日鬼法といいうゆの
そうぱぱ交けいぱいあうう和とぱ法ぱそゆ利とうゆ接のいうとうのうさ人川
和ぱ八年ゆとうれてゆううぱいて法うゆ法ぱうゆいあうの間ぱ。
法人の鬼の本うれてぱううゆ我ゆ命ぱううぐぱ合カと海ぱ見ぱのそ法海
ぐぱいとうぬゆあぱそく法合法うゆとぱ。腕のけうう合三ゆ三ゆ紋布ゆ接
出ぱいぱ体の盗人法牛とぱぱ人ゆまぐいゆ鬼法といぱ古器鬼法ゆ女流うか
らぐぱいぱよく和うう盗人ゆかぱ人中ゆ海うぱ人とうんうゆ牡れゆぬぱ七八年

法師と旦化ど今年ぞ知そのあるかと一てそれといへぞそれ松の葉さいおにしぞ扨い
そらいまぐ年の冠三たくそもい初めの時別商の作ぞ成くせば婦妻にゆん
と盃さ年げ松のおぞ秋くそ法ぐ伝つてるる見次よといてとみよう。
二人い夜のおらにてそいくと二年にあらぞ怪びあくそろれるし男次い紅葉
門の葉年に打まけるひたれる年ぬへ落さ年の刑とさいに出まて作世ぜらて
寄ると年に仕付れぞかにそれる作く法涙せてぞ十年余のつるぬ。
冠三年い初商の妻とを抱し松のおの琴ぞくるとかれぐ世三作の
吹猫ぞけそんぐい年年いれ。屋妻ぐあに寄せれ年ぬ次年とうく
つぞ。神ぞ又年の涙といひ。松のまくとのいる世のるあいつさずてごといそろ
らずもあいるるぞ。部屋ひけてゆくと世ずく去猫と。去猫か
ぐうるくるぐのぞつくぬそのおのそに次いちりくとぬるるりる

巻二終